

「英語立国2028」を目指して  
一度学んだ英語は、音読練習で全部覚えよう！

開倫塾

塾長 林明夫

Q：「英語立国2028」とは何ですか。

A：(1)2028年のOECD・PISA(15歳時の学力国際比較調査)までに、日本の英語力を大幅に引き上げようという私の提言です。

(2)2025年からPISA調査に「英語力」の調査が加わりますが、日本は不参加を表明しました。

(3)今年から5年間、日本は「英語立国2028」という明確な目標を掲げ、2028年のPISA調査では「英語力」の調査に参加すべきと考えます。

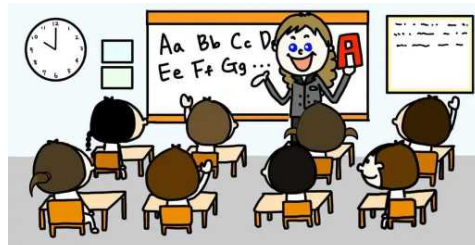


Q：2028年のPISA英語力調査に備えて、何をどうすればよいのですか。

A：(1)2025年のPISA英語力調査は不参加の決定をし、2028年のPISA英語力調査を目指してこれから5年間、全国民の英語力の大幅向上を目指すことは、日本の国際化にとって、素晴らしいチャンスです。

(2)東西冷戦が終結した直後、経済危機に見舞われたフィンランドは、1990年代初頭から全国民の「英語力」向上と、「情報リテラシー(IT教育)」向上を国家戦略として、国を挙げて取り組みました。OECD人材育成に関する調査、研究成果を最も活用したのがフィンランドであると言われています。

(3)その結果、2000年までには、それまでスウェーデン語とフィンランド語しか用いなかった国民の大半が、英語によるコミュニケーション能力を身に付け、また、ノキアを始めとする国際企業を多数輩出。一人当たりGDPが世界トップクラスの国家となり、現在に至っています。



Q：日本もフィンランドに学んだ方がよいですね。

A：(1)その通りです。2003年のPISA調査でフィンランドが世界一の高学力の国になったため、何回かヘルシンキ大学やフィンランド文部省主催の国際会議に参加したことがあります。1990年から、

フィンランドが国を挙げて全国民の英語教育に専念したことをお聞きし、感銘を受けました。

(2)折角のOECD・PISA英語力調査です。日本でも、これから2028年のOECD・PISA英語力調査に向けて、「英語立国2028」を国民運動として行って参りましょう。

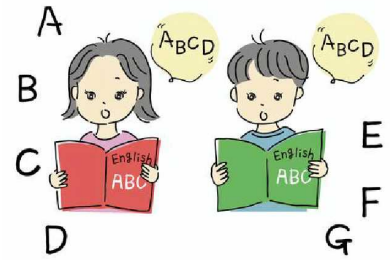


(3)とりあえず、日本人が英語を学ぶ際に最も怠っている「英語の音読練習」を、「英語立国 2028」のスタートとすることを提言いたします。

Q：一度学んだ英語の音読練習ですか。

A：(1)その通りです。日本の英語教育で一番足りないのが、音読練習だからです。

(2)日本の英語教育の最大の問題は、一度学んだ英語の音読練習を怠っているために、自分のものとして身に着かない(定着しない)ことにあります。



(3)①中国はじめ多くの国で英語を学ぶ人々は、小学生だけでなく、中学生・高校生・大学生・大学院生・専門学校生も、皆、一度学んだ英語を大きな声でスラスラよく読めるようになるまで読み、身に着け(定着させ)ることを「学習習慣」としてしています。

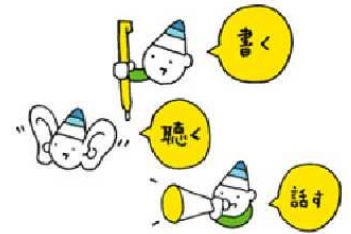
②英語の書き取りテスト(ディクテーション)もさかんです。

③英語による議論・討論もさかんです。

④英語による public speaking もさかんです。

⑤英語による自由作文・レポート執筆もさかんです。

⑥これらを行うべきの基本は、一度学んだ英語の音読練習です。



(4)このように、小学生から大学院生まで英語を学ぶすべての人が、スラスラよく読めるようになるまで音読練習を繰り返すことが、「英語立国 2028」の第一歩です。

(5)①英文法や英作文のテキストも、「音読練習」をしてスラスラよく読めるまでにすれば、すべて覚えられます。

②英語の教科書や問題集も、スラスラよく読めるようになるまで「音読練習」をすれば、「学校の定期テスト」で 100 点満点が取れます。一度解いた問題と解答・解説は「音読練習」をし、スラスラ読めるようになるまでにする。



③さらに言えば、「大学入試」の共通テストや独自入試、「高校入試」などの英語の入試問題や「英検」「TOEIC」「TOEFL」の「過去問」も、「音読練習」を必ず行いましょう。得点できて、合格しても、「音読練習」をしなければ、英語は身に着きません。

Q：「一度学んだ英語の音読練習」以外にも、「英語立国2028」に向けた提言はありますか。

A：(1)あります、山ほどあります。その1つは、私立中学校入試、公立中高一貫校入試、私立高校入試、公立高校入試に、「PISA2025年英語力テスト」とほぼ同じレベルの「英語力テスト」導入を奨励することです。

(2)大学入試共通テストの「リーディングテスト」は、試験時間

を 80 分から 120 分に延長して実施することを提言します。英語を速く読むスピードも大切ですが、時間をかけて全文をじっくり正確に読み込み、正解を導く能力を育成すべきだからです。



(3)リスニングのテキストを含め、35 ページの英文を 80 分間で解答させる現在の共通テストでは、設問を読んでから正解を探し出す「小手先の受験テクニック」しか身に着きません。試験問題の全文を、時間をかけてじっくり読み込み、正解を導き出せるよう、試験時間を 120 分にすることを提言いたします。



Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことがありますか。

A：(1)「2028 年 OECD・PISA 英語力調査」に耐えられるだけの「英語力」を、自らが担当する子どもたちに身に着けさせるためにはどうしたらよいか。是非、真正面からお考えください。そして、やるべきことは何でも全部行うようお願いいたします。

(2)大学や大学院で学ぶ留学生の多くは、英語で多くの教科を学んでいます。留学生を講師として、小・中・高の教科内容を英語で指導する特別コースも、是非スタートしましょう。

○教材出版の「教育開発」では、「新中学問題集(新中間)中 1～中 3 数学」の「英語版」を出版してくださいました。素晴らしい出来栄ですので、「新中間数学英語版」の最大活用を提案します。

○その他の教科も、小・中・高の教科書内容の英語版がどんどん出版されています。留学生を講師に「特別コース」をどんどんスタートいたしましょう。

(3)先生や生徒向けの「オールイングリッシュ」の「英語合宿(DAY キャンプも可)」を、英語好きの先生方と英語の得意な留学生を中心に企画し、「英語漬け」の「体験」を 1 シーズンに 1 回は味あわせるのも有益です。



Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も僭越とは思いますが、先生方がお読みになればお役に立つ本を御紹介させていただきます。

(1)1冊目は、エイスークラブ主宰者、山本千秋先生著「箱根マイセンアンティーク美術館所蔵、マイセン、美と輝きの系譜」日貿出版社 2023 年 3 月 1 日刊です。ドイツのマイセン地方が誇るヨーロッパ磁器の最高峰作品、人類が子孫に残すべき宝物が、1冊にまとめられている素晴らしい御著書です。

(2)2冊目は、同じくエイスーの最高執行責任者、伊藤奈緒先生著「教育による日本再興論、教育は人と社会と国の未来を決する」IBC パブリッシング 2023 年 5 月 14 日刊です。「国家の興廢は教育にあり」との極めて強いミッションの下、現在の日本を鋭く分析、ではどうしたらよいか、その具体策を、伊藤先生がお示しくくださっておられます。学習塾・予備校・私立学校の先生方、教育関係者、必読の書と確信します。是非、御一読ください。

(3)2022 年 2 月 24 日のロシアによるウクライナ侵攻や、中国・北朝鮮の動きを目の当たりにするにつけ、民主主義とは何かをお考えの先生も多いと存じます。そこで次におすすめるのが、福田歓一著「近代の政治思想—その現実的・理論的諸前提」岩波新書、岩波書店 1970 年 1 月 20

日刊と、同著「近代民主主義とその展望」岩波新書、岩波書店 1977 年 6 月 10 日刊の 2 冊です。民主主義の起源、中世、ルネサンス、宗教改革、ホッブズ、ロック、ルソー、マルクス、第一次大戦、ナチス、第二次大戦を経て、今日の世界ができあがったのがよくわかります。○御興味ある先生は、同著「政治学史」東京大学出版会 1985 年刊をおすすめします。名著です。

(4) 佐々木毅著「よみがえる古代思想—哲学と政治、講義(I)」講談社学術文庫、講談社 2012 年 10 月 1 日刊と、同著「宗教と権力の政治—哲学と政治、講義(II)」講談社学術文庫、講談社 2012 年 11 月 12 日刊、同著「民主主義という不思議な仕組み」ちくまプリマー新書、筑摩書房 2007 年 8 月 10 日刊もおすすめします。

(5) 宇野重規著「民主主義とは何か」講談社現代新書、講談社 2020 年 10 月 21 日刊と、同著「民主主義の作り方」筑摩選書、筑摩書房 2013 年 10 月 13 日刊は有益です。これに加えて、同著「保守主義とは何か—反フランス革命から現代日本まで」中公新書、中央公論新社 2016 年 6 月 25 日刊と、先日、御紹介した同著「日本の保守とリベラル」中公公論新社 2023 年 1 月 10 日刊は、更に有益です。

2023 年 6 月 12 日記

